

## 解題

泉 弘志 (大阪経済大学)

世界銀行・国際連合等の共同事業である国際比較プログラム(ICP)の一環としての中国 2005 年購買力平価の数字が公表され (2007 年の年末に速報、2008 年春に確報)、新聞等を賑わした。この数字は、中国経済が急速に発展し世界経済でその存在感をますます高める中、その中国をはじめて正式に包含する国際比較プログラム(ICP)の推計結果として、多くの人の注目を引いた。

本号に訳出する論文の著者余芳東氏は、中国国家统计局のスタッフであり、2005 年 ICP 世界事業に関連する中国国家统计局の仕事で中心的役割を演じた人である。第一論文「世界銀行の中国購買力平価の推計方法、結果及び問題に関する研究」は、この 2005 年の中国購買力平価に関する研究論文である。これは中国語では『管理世界』2009 年第 2 期に掲載された。この 2005 年事業の前、中国は ICP へ 1993 年、1996 年、1999 年の 3 回の事業に試験的な参加をしているが、第二の論文「中国の購買力平価と経済実力の国際比較研究—国際比較プログラム (ICP) の方法による実証分析」は、これらの試験的な参加及び関連する調査・研究に関して、1999 年事業の中国購買力平価の推計方法・結果を中心に分析した博士論文の部分訳である。この博士論文は北京航空航天大学へ提出され、2004 年に博士号を授与され、2005 年に中国統計出版社から単行本として出版された。

中国の購買力平価のデータは中国経済を研究する上でも世界経済を研究する上でも非常に重要なデータである。中国は急速に経済発展を遂げ世界経済の中でますます大きな役割を果たしつつあるが、中国の実質 GDP は世界の実質 GDP の何%を占めるか、中国の実質 GDP はアメリカや日本と比べて相対的にどのような大きさなのか、等を知ろうと思えば購買力平価のデータが不可欠である。中国の平均的生活水準や平均的生産性を他国と比較するにも中国の購買力平価のデータは欠かせない。また、世界全体の実質経済成長率を計算するような場合でも、各国の実質経済成長とともに各国経済の実質ウエイトが必要であり、中国経済のウエイトをどのように算定するかによって世界全体の実質経済成長率の値は大きく変わるので、中国の購買力平価のデータは大変重要である。

しかし、購買力平価のデータは正確なものを求めるのが非常に難しいデータであり、現在存在するデータはまだ正確なものとは言えない粗いデータであるということにも注意をはらっておく必要がある。発表されている購買力平価のデータを寸分の狂いもない正確なものだと誤解して使用すると誤った結論を導き出してしまう危険性がある。発表さ

れている購買力平価のデータがどの程度の精度のものであるか、どのような用途に使用できどのような用途には使用できないか、等々は、このデータがどのような基礎データに基づきどのような方法に基づいて計算されたものであるかを見ることによって判断していくほかない。そのような判断をする上で、本誌に訳出した余芳東氏の論文は貴重な情報を提供している。

正確な中国購買力平価を求めるのが難しいのは、中国において価格その他の基礎データが十分には整備されていないということにもよるが、より基本的には、中国と比較する相手国と間で、文化、経済制度、発展段階等が大きく異なるので、比較可能性（同じ種類の同じ品質の商品にそろえて価格を比較する）と代表性（それぞれの国で重要な代表的商品をサンプルに採用する）を同時に満たす価格サンプルを設定するのが非常に難しいということにもよる。余芳東氏の論文からそのあたりの事情も読みとれる。

余芳東氏がこれらの論文で検討している ICP の購買力平価は GDP の支出サイドを実質化するための支出アプローチの購買力平価である。本誌で泉等が何回か試みてきた産業連関表を実質化するための生産アプローチの購買力平価とは、重なる部分もあるが、別の側面もあり、それぞれが独自の意義を持っている。産業別生産性を分析するには支出アプローチの購買力平価は使用できず、生産アプローチの購買力平価を使用する必要がある。

余芳東氏は中国国家统计局のスタッフであり、2005 年 ICP 世界事業に関連する中国国家统计局の仕事で中心的役割をはたした人ではあるが、本誌に掲載する論文は余芳東氏個人の研究論文であり、国家统计局の見解を述べてものではない、ということも読者は注意すべきであろう。

今年（2010 年）3 月初旬北京で、戴と泉は余氏に会い、これらの論文に関して疑問点を質した。この話し合いで余氏が述べた内容によって訳文を若干修正したので、訳文には中国語公刊論文と異なる部分が 2 ヶ所ある。1 つは、第一論文「世界銀行の中国購買力平価の推計方法、結果及び問題に関する研究」の五の第二段落（14 ページ）に注①を付加したことである。2 つは、第二論文「中国の購買力平価と経済実力の国際比較研究—国際比較プログラム（ICP）の方法による実証分析」の 1.4 の（3）の式（24 ページの）を修正したことである。